

令和4年3月2日

令和4年第1回神奈川県議会定例会

厚生常任委員会報告資料

福祉子どもみらい局・健康医療局

目 次

ページ

1	「かながわコロナ医療・福祉等応援基金」活用事業について.....	1
---	----------------------------------	---

1 「かながわコロナ医療・福祉等応援基金」活用事業について

県では、「かながわコロナ医療・福祉等応援基金」を設置し、医療・福祉従事者及びボランティア団体等を応援する事業を実施しており、その進捗状況等を報告する。

(1) 令和2年度実施事業 9億7,707万円（※他局分5,692万円を含む）

ア みんなの感謝お届け事業（県産品） 8億9,631万円

かながわの名産100選などから選べる県産品カタログに、県民の皆様からのメッセージを添えて、医療機関・福祉施設計35,354施設に、希望の県産品（規模に応じ、1.3万円～14万円相当）を贈呈した。

また、横浜高島屋の店舗壁面に、書家の金澤翔子氏揮毫による懸垂幕「ありがとう」を掲示するなど、県民の皆様からの「感謝」の気持ちを医療・福祉従事者に伝える取組を実施した。

（医療機関・福祉施設からの意見）

「私たちのことを気に掛けてくれた方々がいると思うと励みになる」

「こんな形で頑張りが返ってくるとは思わなかった」等

イ 子ども食堂の継続支援 365万円

新型コロナウイルス感染症の影響により、子ども食堂の継続に支障が出ているボランティア団体等の活動支援のため、新しい生活様式を取り入れて活動する団体等73者に協力金（5万円/団体）を支給した。

（ボランティア団体等からの意見）

「お弁当パックや消毒・衛生用品が不足していたので購入代に充てた」

「県からの支援金はとても有難く、活動の継続に繋がっている」等

ウ 「認知症カフェ」のリモート開催支援 2,019万円

新型コロナウイルス感染症の影響で、多くが休止となっている「認知症カフェ」を実施するボランティア団体等52者に対し、認知症の方やそのご家族などが、安心して交流を継続できるよう、「認知症カフェ」のリモート開催に必要な端末の提供や、実施のサポートを行った。

（ボランティア団体等からの意見）

「中止していたカフェを早期に再開することができた」

「若年性認知症の本人や家族にとって、リモートで開催できたのは大変良かった」等

(2) 令和3年度実施事業

ア 潜在看護職員復職支援事業 1,400万円（予算額）

コロナ禍における潜在看護職員の再就職を支援し、医療従事者の負担を軽減するため、対象期間内に復職した潜在看護職員に対して、奨励金（2万円／1人）を給付している。

2月24日時点で254人から申請があり、再就職先としては、ワクチン接種会場、病院・診療所、介護・福祉施設、訪問看護ステーションなどとなっている。

(3) 今後の基金活用事業

ア 基金の積立状況

引き続き、様々な広報媒体の活用などにより基金を効果的に周知し、医療・福祉従事者への感謝・応援の気持ちの機運醸成に努める。

- ・現在の基金積立状況（令和4年2月28日現在）

基金積立合計	16億6,414万円	
	〔 県民等からの寄附	9億7,642万円
	職員・議員手当等削減額	6億8,772万円
活用状況	9億9,107万円	
次回活用可能額	6億7,307万円	

イ 次回の基金活用事業の検討

コロナ禍の長期化で厳しい状況の続く、医療、福祉、ボランティア等の現場の負担を軽減し、支援していくため、次回の基金活用事業の実施について検討している。

今後の基金の積立状況及び新型コロナウイルス感染症への対応状況を踏まえ、医療・福祉関係団体等の希望や、県民の皆様、議会の御意見をもとに、具体の事業内容や時期について、検討を進める。

（検討している事業例）

- ・医療機関の看護職員確保・育成支援
コロナ禍で業務負担の大きい医療機関の看護職員確保を支援するため、医療機関が、新卒以外で一定期間離職していた看護職員を確保した場合に支援する。
- ・介護・障害福祉施設の潜在職員復職支援
コロナ禍で業務負担の大きい介護・障害福祉施設の職員確保を支援するため、離職後に再度、介護・障害福祉施設の正規職員として就職する方に対し給付金を支給する。
- ・ボランティア団体の活動継続支援
コロナ禍で活動継続が難しくなっている、ひきこもり支援、女性支援、認知症カフェなどのボランティア団体を支援する。